学年・学級経営

お互いのよさを認め合い，自分の思いや考えを積極的に伝え合う児童の育成
～表現力を高め合う活動を通して～

十島村立口之島小学校　教諭　中村　佳世

【推薦のポイント】

○　児童の自己肯定感の低さが課題となっている今，互いを認め合おうとする学級経営・その姿勢を基盤とする自由な表現活動の場の工夫・これらの実践の年間を通した継続と絶え間ない声掛けの結果としての自己肯定感の高まり，これらの点から研究テーマの具現化を図った，優れた論文です。

○　「尊敬ポイント」,「いいね！のひとこと」は，他者理解という点で個々の自己肯定感を支える素晴らしい取組であり，どの学級でも経営の参考になるものです。

目　　次

1　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2　研究主題設定の理由　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
（1）学校教育目標及び経営方針より
（2）児童の実態から

3　研究の仮説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

4　研究の具体的な内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
（1）仮説１における手立て
（2）仮説２における手立て

5　研究の実際　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
（1）仮説１における手立て
　ア　「尊敬ポイント」と「いいね！のひとこと」の取組
　イ　「キーワード学習」,「リーダー学習」の取組
（2）仮説２における手立て
　ア　「コロコロスピーチ」の取組
　イ　「読書チャレンジ」と「読書記録」の取組
　ウ　表現方法の工夫と発表する場の設定

6　研究のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
（1）研究の成果
（2）研究の課題
（3）今後につなげていきたいこと

7　おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

1　はじめに

今年度の校内研究テーマは,「お互いの夢・目標に向かって，自分を発見・発信することができる児童生徒の育成～自信をもって課題への思いや考えを自己表現する学習の展開を通して～」である。

本テーマは,本校の児童生徒の実態を踏まえ,今年度から新たに取り組み始めた研究テーマである。本テーマには，本校の児童に身に付けさせたい「自己表現力の向上」,「自己肯定感の育成」を重点としている。これを受け，まずは自分の学級や担当している金管バンドの取組において，児童が互いに関わり合いながら自己表現をするための手立てと，学習意欲を高めていくための効果的な方法について考えることで本研究テーマに迫りたいと考えた。

2　研究主題設定の理由

（1）学校教育目標及び経営方針より

本校の学校教育目標とめざす児童生徒像は以下のとおりである。

＜学校教育目標＞ お互いを認め合いながら，主体的に自らを高める児童生徒を育てる。
＜めざす児童生徒像＞ ○　自ら考え，進んで学びを表現する児童生徒【知】（キーワード：チャレンジ） ○　自分と周りを大切にする児童生徒【徳】（キーワード：優しさ） ○　健康・安全に気を付け，目標をあきらめない児童生徒【体】（キーワード：元気）

本校の学校教育目標には「お互いを認め合う」「主体的」「自らを高める」という言葉が，めざす児童生徒像には「自ら考え，進んで学びを表現する」という言葉が含まれている。この言葉を受け,児童生徒が楽しく学校生活を送るためには「互いを認め合う雰囲気づくり」が大切であり，主体的に自らを高め合うためには「自分で考えたことを表現する力」が大切ではないかと考えた。

（2）児童の実態から

本校は小中併設校で小学生６人，中学生４人，計１０人の極小規模校である。児童生徒は普段から全員で活動することが多いため仲が良く，よい関係性が築かれている。その一方で，この関係が壊れるのを恐れ，自分の考えをうまく言葉で表せなかったり，注意すべき場面で注意することが出来なかったりする。そこで,本当によい関係を築くためには一人一人が自分の考えをもち，相手を注意できることも含め，互いに高め合う声掛けができるようになることが大切であると考えた。

今年度担任している５・６年生学級は，６年生２人，５年生２人の計４人である。昨年度から関わっている児童が多いため，とても仲良く過ごす様子が見られる。しかし，４月当初は学習に対する意欲が低く，特に国語に対しては「読書が好きではない。」「発表は好きだけれど，文章を考えられない。」という声が上がっていた。授業や学級活動の中で発表の練習を重ね，学級内では４人とも積極的に発言する姿が見られるようになった。しかし，十島村の七島で行っているトカラ集会や全校朝会などでは，なかなか発言や反応ができなかった。これらの実態から，児童に自信をもたせ，積極的に自分の思いを表現するための手立てを講じていきたいと考えた。

６年生の児童Ａ，Ｂは，２人とも明るく元気で学級のムードメーカーである。しかし，全校朝会や大勢の人の前では恥ずかしいという思いが先行し,本来の明るさを発揮できないことが多い。４月当初の２人の口癖は「面倒くさい」であった。それは本心ではなく，失敗したらどうしようという心配から，自分を守るための口癖になっているのではないかと感じた。児童Ａは，３年前

から担任をしており，３年間での成長がよく見られる。４年生の頃は何をするにも「ぼくはできない。」と決めつけてしまう所があった。４年生，５年生で少しずつ自己肯定感の高まりが見られるようになったが，６年生というプレッシャーもあり，４月は児童Ｂと共にマイナスな発言をすることが多かった。

５年生の児童Ｃ，Ｄについては，性格は対照的であるものの，互いに助け合ったりアドバイスをし合ったりすることができる，よきライバルである。２人とも頑張り屋でよい面がたくさんあるが「すごいね。」と褒めるとそれを否定してしまうことがある。「全然そんなことないです。」と首を横に振ることが多く，こちらが「自分を認めていいんだよ。」と伝えると「調子に乗っている感じがするから…。」と返答してしまう。「できていない」という，マイナスの発言をすることで本来のよさがかき消されてしまうため，これを改善していきたいと考えた。児童Ｄは，今年度留学生として新たに仲間入りした。おとなしい性格で，前に出るタイプではないが，自分の考えをしっかりともっており，友達にアドバイスをする様子が見られる。昨年度から一緒に過ごしている３人に比べると遠慮がちな所はあるが，本児のよさを伸ばしていきたい。これらの児童の実態から，本研究を通して児童が自己肯定感や表現力を高め，生き生きと学校生活を送れるような手立てを講じていきたいと考えた。

３　研究の仮説

＜仮説１＞　授業や学校生活における児童が関わり合う場，互いを認め合う場の設定

授業だけでなく，学校生活の様々な場面で児童の関わり合いの場を設定し“できた”という経験を積み重ねることで，個々の自己肯定感を高めたり互いを認め合う雰囲気を作ったりすることができるのではないか。

＜仮説２＞　自分の思いや考えを自由に表現し，互いの考えを認め合う場の設定

リーダー学習や話合いによる児童主体の学習の場を多く設定したり，読書に取り組みながら表現の仕方を提示し共通理解を図ったりすることで表現技法を身に付け，自分の思いや考えを素直に伝えることができるようになるのではないか。

４　研究の具体的な内容

（１）仮説１における手立て

ア　「尊敬ポイント」，「いいね！のひとこと」の取組

児童が考えた学級目標「Let’s challenge!　尊敬される５・６年」の中の「尊敬」という言葉を用い，互いのよさを尊敬ポイントとして発表，掲示する。また，自主学習の取組について「いいね！のひとこと」を通した交流を図る。

イ　「キーワード学習」，「リーダー学習」の取組

授業において，前時に児童から出た「キーワード」をもとに，本時のめあてを立てたり，リーダー学習に取り組んだりすることで，自分たちで授業を作り上げることができたという達成感を感じられるようにする。

（２）仮説２における手立て

ア　「コロコロスピーチ」の取組

朝の会で「コロコロスピーチ」に取り組み，１分間という時間を意識しながらテーマについて自分の考えを発表することで，表現力を高めたり，発表の仕方を学んだりする。

イ　「読書チャレンジ」,「読書記録」の取組

読書に進んで取り組み，読んだ本について自主学習ノートにまとめることで，本から様々な表現方法を学んだり，それを生かして友達におすすめの本を紹介する文章を書いたりする。

ウ　表現方法の工夫と，発表する場の設定

発表の仕方や聞き方，めあての立て方，振り返りの書き方などを示したり，Google Jam board を活用して互いの考えが視覚的に分かるようにしたりする。また，学級での発表だけでなく，様々な場面での発表の機会を設ける。

5　研究の実際

（1）仮説１における手立て

ア　「尊敬ポイント」と「いいね！のひとこと」の取組

「尊敬ポイント」…友達のいいところや真似したいこと，すごいな！と思う所。

自分たちで考えた本学級の学級目標の「尊敬」というキーワードを用い，友達の「尊敬ポイント」の発表と掲示を行っている。自分にはよいところがあるかと問われると謙遜したり否定したりするが，尊敬ポイントが書かれたカードをもらうと，嬉しそうに読んでいる姿が見られた。

星型カードには「字がきれい」,「計算が早い」などそれぞれのよさが書かれている。

「いいね！のひとこと」…いいね！真似したいな！ということを一言で伝えよう。

日頃取り組んでいる自主学習において，取組の様子を互いに読み合う活動を行っている。以前から自主学習に対して苦手意識をもっている児童が多く，取組当初は「何をしたらいいのか分からない。」「時間がかかって，面倒くさいなあ。」という声が上がっていた。しかし，友達に読んでもらい，自分の努力を認めてもらうことで達成感を感じ「次はこんな学習にも取り組んでみよう。」「D さんのやり方を参考にさせてもらおう。」と，自主学習に対する意欲も高めることができた。この活動では，友達にノートを返す時に必ず「いいね！のひとこと」を添えて返すようにしている。よさを伝え合うことで，更に自信をもつことができたようであった。また，言葉で伝えるだけでなく「いいね！」のひとことを付箋に書きノートに貼る活動も行っている。付箋に書くことで自分のよさを記録として残すことができた。この自主学習ノートが児童の自己肯定感や学習意欲を高める手立てとなっていくことを期待している。

自主学習ノートのコピーを教室に掲示し，互いの取組を自由に見られるようにしている。下学年の児童も興味をもって見ているため，上学年の児童はより分かりやすいまとめ方を目指すようになった。最近は「先生，このページをコピーしてください！」と，児童から意欲的な声が上がるようになった。

児童 B のもとに集まり，ノートを見ながら児童 B のよさを伝える３人。

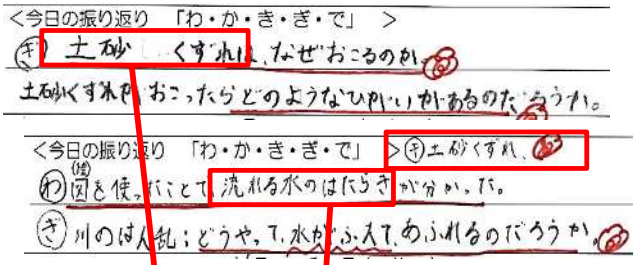
＜児童 B の振り返り＞
みんながぼくの考えを認めてくれて嬉しかったです。自分の気持ちを大切にしようと思いました。

イ　「キーワード学習」,「リーダー学習」の取組

「キーワード学習」…児童の振り返りからキーワードを見つけ，次の授業に生かすことで，自分たちで授業を作り上げているという達成感を生み出す。

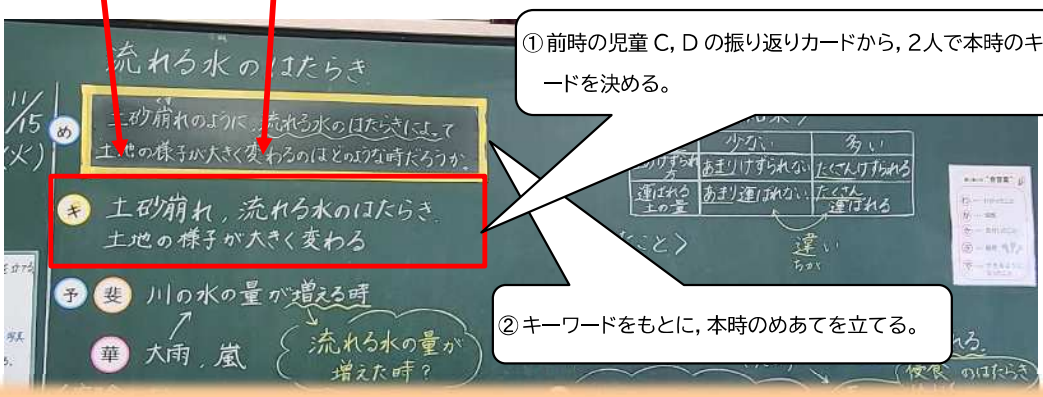
児童は，どの教科にも「なぜだろう」「この場合はどうなるのだろう」と，学習課題について多くの疑問をもつことができる。その疑問について教師が問うと，自分たちの考えを進んで伝え合う様子が見られる。このことから，児童の「なぜだろう」という疑問を次の授業のめあてに生かすことができないだろうかと考えた。

＜授業の実際＞



←児童Ｃの振り返りカード
疑問「土砂崩れはなぜおこるのか」

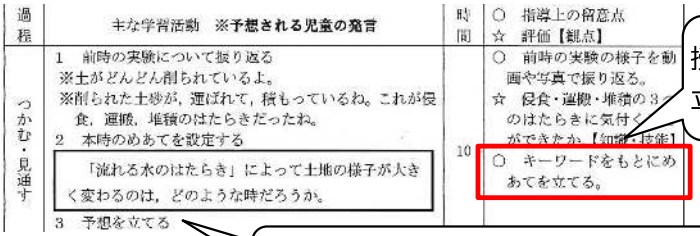
←児童Ｄの振り返りカード
キーワード「土砂崩れ」「流れる水のはたらき」



①前時の児童Ｃ，Ｄの振り返りカードから，２人で本時のキーワードを決める。

②キーワードをもとに，本時のめあてを立てる。

授業の初めに児童がキーワードを決定し，板書することで，「今日のめあては〇〇でどうかな？」と，毎時間進んでめあてを立てることができるようになった。
（キーワードの決定には教師も参加し，本時の流れも踏まえながら一緒に考えている）



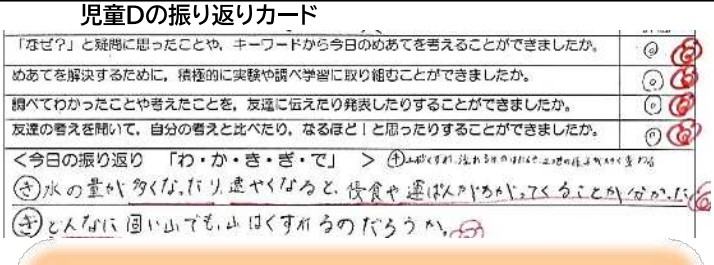
過程	主な学習活動　※予想される児童の発言	時間	○ 指導上の留意点 ☆ 評価【観点】
つかむ・見通す	1　前時の実験について振り返る ※土がどんどん削られているよ。 ※削られた土砂が，運ばれて，積もっているね。これが侵食，運搬，堆積のはたらきだったね。 2　本時のめあてを設定する 「流れる水のはたらき」によって土地の様子が大きく変わるのは，どのような時だろうか。 3　予想を立てる	10	○　前時の実験の様子を動画や写真で振り返る。 ☆　侵食・運搬・堆積の３のはたらきに気付くができたか【知識・技能】 ○　キーワードをもとにめあてを立てる。

授業計画の中に，キーワードをもとにめあてを立てるという時間を位置付けている。

児童のキーワードによって，本時のめあては「土砂崩れのように，流れる水のはたらきによって土地の様子が大きく変わるのはどのような時だろうか」に変わった。

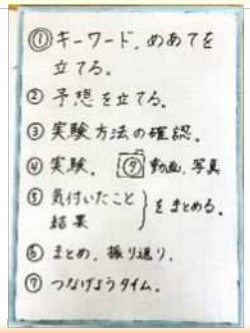
達成感や，学習に対する意欲の高まりが，授業の様子や振り返りカードから見られた。

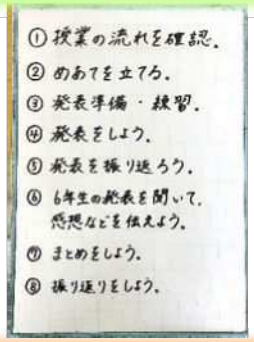
児童Dの振り返りカード



自分たちで立てためあてを6年生に説明し，積極的に実験に取り組むことができた。また，児童Ｃ･Ｄ共に，「疑問やキーワードから今日のめあてを考えることができましたか」という振り返り項目をはじめ，全ての項目に◎がついた。

「リーダー学習」…複式学級において，単元の流れや1時間の授業の流れを黒板に示し，児童が主体となって学習を進めることができるようにする。





本学級は複式学級であるため，授業の中で教師の「わたり」の時間が発生する。授業の流れを示し，確認しておくことで，５年生も６年生も黒板を確認しながら自分たちで学習を進めることができるようになってきた。また，児童主体の学習を進めることで，**児童からの質問が多くなった。**

児童自身が学習を進めているという達成感をもち，学習に対する意欲の高まりが見られる。

リーダー学習を進める中で，自然と教え合ったり，進んで黒板に考えを書いて説明をしたりする姿がよく見られるようになった。

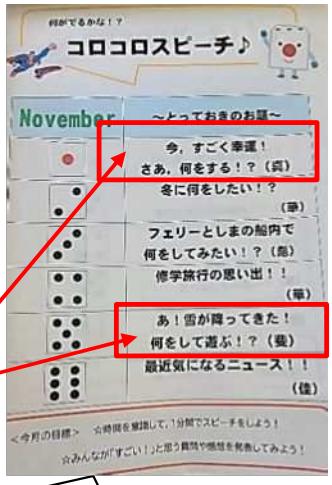
（２）　仮説２における手立て

ア　「コロコロスピーチ」の取組

朝の会で日直による「コロコロスピーチ」を行っている。コロコロスピーチとは，サイコロを振り，出た目のテーマについて１分間で自分の考えを発表するというものである。

毎月，児童と担任がそれぞれテーマを考えている。

７月は１人１つずつ考えることが精一杯であったが，毎月取り組むことで２つ３つテーマを考えたいという声が上がるようになった。また，テーマの内容も問いかけるような工夫した表現が見られるようになった。



毎月，今月の目標として「時間を意識して，1分間でスピーチをしよう」という基本的なポイントをはじめ，「友達に語りかけるように発表しよう」，「質問と感想をはっきり分けて発表しよう」など，発表者・聞き手それぞれに向けた発表のポイントを設定している。

「コロコロスピーチ」の取組により，大きく3つの成果が得られた。

＜成果①＞　発表の仕方，話の聞き方が身に付いた。

〇時間を意識して自分の考えをまとめることができるようになった。
〇「ぼく・私の〇〇は～です。」「なぜかというと…。」と，発表の仕方を意識して話をすることができるようになった。
〇人の話をしっかりと聞くことができるようになった。
〇話を聞くときに「頷く」「拍手をする」といった反応をしたり，発表内容に合った質問や感想を伝えたりすることができるようになった。

＜成果②＞　積極性が身に付いた。

〇テレビ会議での他島との交流において，積極的に感想や質問発表に挑戦するようになった。
〇自信をもって自分の考えを発表することができるようになった。
〇色々な場面で発表することができるようになった。

→表現力を高めることで自信がつき，自己肯定感の高まりも見られるようになった。

修学旅行の解団式で，十島村全島の５・６年生と先生方の前で１人ずつ感想発表をする場があった。発表後，児童Ｃは「**コロコロスピーチをやっていてよかった！**こんなにたくさんの人の前で１分間話すなんて，絶対にできなかったと思う。」と話していた。

→日頃のコロコロスピーチの取組が，児童の日常生活に生かされていることが分かる。

＜成果③＞　話合い活動や発表に対する意欲が高まった。

〇話合い活動に対する意欲が更に高まった。
〇発表することを楽しみにする様子が見られるようになった。
〇発表に向けて，自主的に練習や準備に取り組むようになった。
〇自分たちで話合いを進めることができるようになった。

イ　「読書チャレンジ」と「読書記録」の取組

本校は学習委員会を中心に，読書の啓発に取り組んでいる。しかし，図書室が中学校校舎にあることや，休み時間に図書室に行く習慣がないことから，読書に対する意識が低いという実態が見られた。学習委員会から学級文庫設置の提案があったときも，休み時間に本を手に取る姿は，あまり見られなかった。そこで１学期（７月）に読書に関するアンケート調査を行ったところ，以下の表のような実態が見られた。

学習委員会の取組

文章を読むことに苦手意識をもっている６年生の児童Ａは，読書について「あまり好きではない」と答えていた。

読書に関するアンケート　「読書は好きですか？」（５・６年生４人７月）

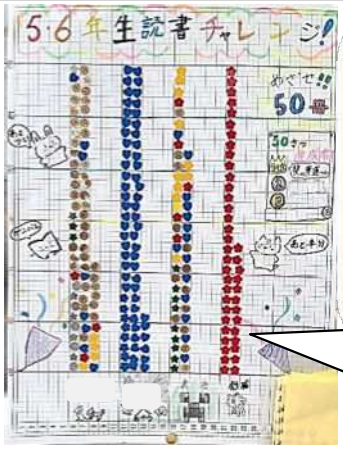
	とても好き	好き	普通	あまり好きではない	好きではない
５年		１人	１人		
６年			１人	１人	

☆読書チャレンジを始める前
読書に進んで取り組むことができていましたか？　5・4・③・2・1
<理由>
あまりかりることができなかったからです。

☆読書チャレンジを始める前
読書に進んで取り組むことができていましたか？　5・4・③・2・
<理由>
朝、あまり本を借りることが出来なかったから。

このような実態を受け，２学期から学習委員会の取組と併せて学級独自の取組を始めることとした。

（ア）読書チャレンジの取組



「5・6年生読書チャレンジ」グラフ

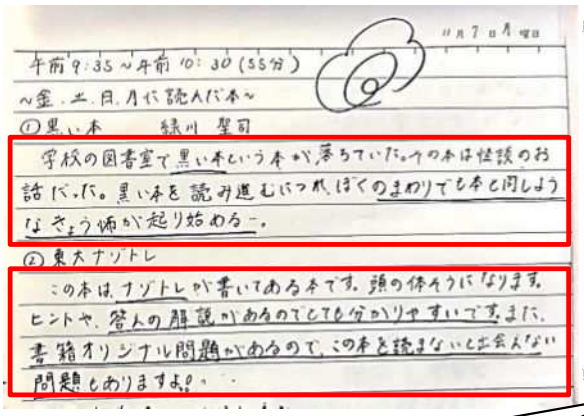
「5・6年生読書チャレンジ」というグラフを作成・掲示し，2学期に1人50冊ずつ，**全員で200冊を達成しよう**という目標を掲げた。

読書の冊数を**シールで示す**ことで，視覚的に取組状況がわかるようにした。内容をしっかりと読むことも大切であるが，まずは**本を手に取るという“きっかけ作り”**が必要だと考え，朝の会や帰りの会で達成状況を伝えることで読書に対する意識を高めることができた。

読書チャレンジを始めてから，朝活動の前に図書室に行く様子がよく見られるようになった。

児童Ｂ，Ｃ，Ｄの３人は，早い段階で目標冊数の５０冊を達成することができた。また，児童Ａも５０冊まであと少しの所まできている。

（イ）読書記録の取組


11月7日(月曜日)
午前9:35～午前10:30(55分)
～金.土.日.月に読んだ本～
①黒い本　緑川 聖司
学校の図書室で黒い本という本が落ちていた。その本は怪談のお話だった。黒い本を読み進むにつれ、ぼくのまわりでも本と同じようなさっう怖が起り始める…。
②東大ナゾトレ
この本はナゾトレが書いてある本です。頭の体そうになります。ヒントや、答えの解説があるのでとても分かりやすいです。また、書籍オリジナル問題があるので、この本を読まないと出会えない問題もありますよ。

読書を通して**表現力を高めるため**に，自主学習の中で，**「今週の読書記録」**を設定した。本の内容を友達に紹介する中で，どうしたらみんなに読んでもらえるかということを考えながら文章を考えている様子が見られる。「ぜひ読んでみてください。」という表現から，**「この本を読まないと出会えない問題もあります！」**や**「周りでも同じような恐怖が起こり始める…。」**というような，**読み手を引き付ける表現の工夫**ができるようになった。

表現力の高まりが見られる。

児童のアンケート

☆読書チャレンジは自分たちに必要だと思いますか？　⑤・4・3・2・1
<理由>
読書チャレンジをすることで、かりている冊数でライバルしんがわき、読書ぎらいというかがわくもか。

これら2つの取組の結果，読書に対する意識の変化が見られた。

読書に関するアンケート「読書は好きですか？」（５・６年生４人１２月）

５年生も６年生も，
「好き」→「とても好き」，
「普通」→「とても好き」，
「あまり好きではない」→
「好き」と意欲が向上している。

	とても好き	好き	普通	あまり好きではない	好きではない
５年	２人				
６年	１人	１人			

ウ　表現方法の工夫と発表する場の設定

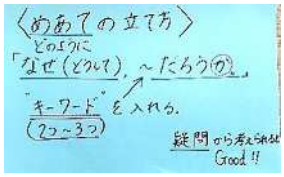
児童の実態として，大勢の人の前に出ると，言いたいことはあってもどのように伝えたらよいかわからずに止まってしまうことや，学級から外に出るとなかなか自分を表現できない部分がある。そこで次のような取組を行った。

～表現方法の工夫～

（ア）めあて，振り返りの“合言葉”を示す

発表の仕方やめあての立て方，振り返りの合言葉などを示し，自分の言葉で表現できたという実感をもたせる。

めあての設定や振り返りに進んで取り組むようになった。



（イ）Google Jam board の活用

タブレット端末で「Google Jam bord」を活用し，クラウド上のホワイトボードに児童の考えをまとめる活動を行っている。「Google Jam bord」のよさは，個々の考えがリアルタイムで共有ボードに反映されることである。意見の共有やグループ分けが容易にでき，積極的に自分の考えを表現することができている。

操作をすぐに覚え，次々と意見を出したり，カードを動かしながらまとめたりすることができた。

～発表する場の設定～

島のよさを生かした「くちっこ園」や「なごみの里」などの施設へのインタビュー，地域住民との交流。また，小中合同で行っている金管バンドでの発表など，学級の中だけでなく，できるだけたくさんの人と交流する場を設定することで，様々な場面で自分の考えを表現することができるようになってきた。

金管バンドでの発表

「くちっこ園」でのインタビュー活動

「なごみの里」でのインタビュー活動

地域住民とのふれあい

6　研究のまとめ

（1）研究の成果

ア　授業や学級活動の中で友達のよいところを見つけたり，互いのよさを認め合ったりする活動を行うことで，行事やグループ学習などで積極的にリーダーに挑戦する姿が見られるようになった。→自己肯定感の高まりが見られた。

イ　リーダー学習などに取り組むことで，自分たちで学習を進めたり授業を作り上げたりすることができるようになり，学習意欲が高まった。

ウ　発表の方法を共通理解し，コロコロスピーチや読書チャレンジに取り組むことで，表現力を高めることができた。また，その力を様々な場面で生かすことができた。

児童Ｃは,「第65回鹿児島県児童生徒作文コンクール」において特選を，児童Ａは同コンクール十島村審査会において推薦を受賞することができた。

学校生活についての振り返りアンケートから，元々算数が苦手と言っていた児童Ｃが，今では算数が得意で，算数の授業を楽しみにしていることが分かる。また，学級に対するアンケートでは，４人とも「５」の評価をつけた。このことから，学級への満足感や所属感があることも分かった。

自己肯定感・学習意欲についての回答（１２月）　（５とてもそう思う→１そう思わない）

☆５年生・６年生になって，できるようになったことはありますか？

＜具体的に＞ 算数がとくいになりました。

☆この学級（５・６年生学級）は，最高ですか？　⑤・４・３・２・１

エ　表現力についてのアンケート結果からは，次のような成果が見られた。

（ア）　「コロコロスピーチは好きですか」という質問に，４人とも「５」の評価がついた。理由として，児童Ｂは「友達のことも知ることができるし，自分のためになると思っているから。」と回答している。

児童は「コロコロスピーチ」が大好きで，日直を楽しみにしている。行事等でスピーチができなかったときは,「この前できなかったコロコロスピーチは，今日やりますか。」という声が上がる。←表現することの楽しさを実感している。

（イ）　文章読解，文章作りについて苦手意識をもっていた児童Ａ。コロコロスピーチに取り組むことで，「言いたいことがすぐにまとめられるようになった。」，「文章力がどんどん身に付いているから。」とそれぞれに「５」の評価をつけている。

表現力に関する回答（１２月）　（５とてもそう思う→１そう思わない）

☆コロコロスピーチは好きですか？　⑤・４・３・２・１

＜理由＞ 友達のことも知ることができるし、自分のためになると思っているから

☆コロコロスピーチで身に付いた力がありますか？　⑤・４・３・２・１

＜５・４と答えた人→どんな力が身に付きましたか？＞

言いたいことがすぐにまとめられるようになった。

☆コロコロスピーチは，これからの自分に役立つと思いますか？　⑤・4・3・2・1
<具体的に，どんなことに役立つと思いますか？>
自分のことを発表するときなどに短く要点をまとめて発表することが出来ると思う。

☆読書チャレンジは自分たちに必要だと思いますか？　⑤・4・3・2・1
<理由>
読書のきっかけになるから。

☆友達の宅習を読む活動は，自分自身の力を高めることにつながっていると思いますか？
⑤・4・3・2・1
<理由>文章力がどんどん身に付いているから。

（２）研究の課題

ア　伝えたいことのキーワードを考えることはできるようになったが，それをどのように文章表現していくか，更に練習が必要であると感じている。

イ　読書チャレンジなど，児童の意欲を高めながら継続していく必要がある。
→取り組み始めた時は意欲的であるが，その意欲をどのように保っていくかという点で工夫が必要であると感じている。

（３）今後につなげていきたいこと

ア　どのような場でも自分の考えを伝えられるよう，テレビ会議で他島の児童と積極的に交流をしたり，小中併設校のよさを生かして中学生に発表する機会を取り入れたりする。

イ　「くちっこ園」や「なごみの里」をはじめ，島民の方々の前で発表する機会を設けることで，自信をつけていく。

ウ　児童の表現力を生かし，積極的に新聞投稿や各種コンクールに挑戦する。

表現力を身に付けると共に，自己肯定感を高める。

エ　児童の意見を聞きながら，読書チャレンジや読書記録などの取組に新たな工夫を取り入れていく。（やってみたい！ということに挑戦できるようにする。）

オ　定期的に振り返りアンケートを実施し，児童の実態把握を行う。

7　おわりに

本研究テーマに沿って学級での取組を実践する中で，児童はみな「できるようになりたい。」という気持ちをもっていることが改めて分かった。今回の実践は，教師の提案に児童のアイデアを取り入れたものがたくさんある。児童のアイデアから教師自身が学ぶことがたくさんあった。また「自己肯定感」と「表現力」は，つながりが深いことが分かった。児童の姿から，どちらかの意識が高まれば，自然ともう一方の意識も高まるということも分かった。今後もこの２つのことを関連付けながら児童の成長につながる手立てを考えていきたい。